国際共修授業履修経験者からの声

※所属・学年は2026年1月現在

在学生より

佐藤 美桜 さん （医学系研究科 修士課程1年）

入学当初から国際交流に興味があり、東北大学グローバルリーダー育成（TGL）プログラム指定科目の一環として、国際共修授業への参加に至りました。最初はTGL認定を主な目的として履修していましたが、どの授業もテーマがユニークで、ディスカッションベースの形式が多く、刺激にあふれていました。その結果、最終的にはTGL認定に必要な科目数を超え、自身の関心に応じた多くの国際共修授業を履修するようになっていました。クラスメイトは出身も年齢も様々で、子育てをしながら学ぶ留学生、働きながら大学に通う社会人学生、時差の大きい地域から同じオンライン授業に参加する外国人学生など、幅広い仲間とつながりを得られた点も大変貴重でした。

授業では対話を通して毎回新たな発見があり、視野が広がったと感じます。国際共修授業を通して得たグローバル視点での学びは、現在の観光ボランティアや仙台ユネスコメンバーとしての活動で活かされています。国際共修授業で出会った仲間はアクティブな人が多く、様々な分野で活躍しているので、その存在も活動をする上でモチベーションになっています。

卒業生より

株式会社国際協力銀行

庄子 美彩 さん （経済学部経済学科卒業）

私は東北大学を2021年9月に卒業し、現在は国際協力銀行（JBIC）という政府系金融機関で勤務しています。

国際共修との出会いは、留学生と国内学生がグローバルな視点を取り入れたコントを制作するという東北大学の国際共修授業と吉本興業のコラボ授業でした。世界中から学生が集まるグループで、何が「面白い」のかを紐解きながら目に見えない「笑い」を形作ることは、はじめ途方に暮れたものでしたが、最後には納得のいく作品となり、国際的な場での会議進行や意見調整の方法を自然に習得する貴重な機会になりました。

国際共修等の経験を通じ、キャリア選択においても国際的な環境で知見を広げていきたいと感じ、現在はJBICで日本企業と外国政府・海外企業を繋ぐ立場として日々奮闘しています。米州での長期出張時には、解のない社会課題に対して現地政府と日本企業がどのようにコラボレーションできるかについて検討するチームに参加しました。バックグラウンドが異なるそれぞれの立場を理解し、お互いの価値観をすり合わせ、新しいプロジェクトを考える過程は、まさに国際共修で培った能力が活きた瞬間だと感じました。

国際共修は、世界中から集まる学生と、新しいものを創造する経験にあふれており、授業は何度失敗してもいい、安全な場所です。これから履修される皆さんにも、ぜひ楽しみながら学び、自分の将来を支えてくれるような知見や度胸を得てほしいと感じています。

国際共修ワンポイントTips

国際共修授業を履修するにあたり、留学生とのはじめのひとことって緊張しますよね。私も緊張して話せないこともありましたが、大事なのは度胸と場数！最初は上手に話せなくても、回数を重ねるごとに上手くなっていきます。私は初対面の会話をきっかけに、一生の友人になった留学生の友人もいます。失敗を恐れず、ぜひ自分から話しかけてみてください！

グローバルラーニングセンター（GLC）について詳しくはこちら
GLCが実施する教育活動や留学・国際交流関連のイベント情報をご覧いただけます

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
グローバルラーニングセンター

〒980-8576　宮城県仙台市青葉区川内41
Email: tohoku-si@grp.tohoku.ac.jp

2026年1月発行

国際共修 スタートブック

Dive into Intercultural Collaborative Learning!

東北大学グローバルラーニングセンター

GLC Global Learning Center, Tohoku University

国際共修とは

What is Intercultural Collaborative Learning (ICL)?

言語や文化の異なる学習者同士が、意味ある交流 (Meaningful Interaction)を通して、他者への理解を深めながら、己を見つめなおすメタ認知活動を経て、新しい価値観を創造する学習体験

- 学習者中心のアクティブ・ラーニング
- 教員はファシリテーターとして学び合いを支援

東北大学における国際共修の理念

東北大学では、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を基盤として、指導的人材の育成を目指しています。国際的な協調・協働なくして解決できない課題が山積する今日において、グローバルに活躍する指導的人材の育成として、国際教育の中核を留学とともに担うのが国際共修です。2026年度は、全学教育科目を中心に100科目以上の国際共修授業が開講されます。

総合研究大学の強みを活かして、**言語・文化的背景や学問分野の垣根を越えた学生の学び合い**を促進し、複数の知識の掛け合わせのもと、**国際社会や地域社会の課題解決、価値創造**に挑むレジリエントな人材を育成します。

学習者に期待される成長

国際共修を通じて、学習者は**異文化間能力**を高めることが期待されます。異文化間能力とは、社会における様々な差異を理解し、国・地域を越えた効果的な交流や対話を行うために必要なスキル・態度・行動です。東北大学の研究者が中心となって開発した「**国際共修ルーブリック**」では、これらの能力が4つのカテゴリと21の下位項目として体系的に整理されており、授業や各種活動で活用されています。

観点		定義	習熟度			
大項目	小項目		1	2	3	4
自己成長へ向かう力	自己理解力	多様な人々と関わる中で、自分自身の考え方や感情、能力を客観的にとらえる力	自分自身の考え方や感情、強み・弱みについてあまり意識することがない。	自分自身の考え方や感情、強み・弱みをある程度理解しているが、他者から見た自分を意識することはあまりない。	自分自身の考え方や感情、強み・弱みをおおむね理解し、独りよがりにならないよう、他者の視点から自分をとらえようとしている。	常に新しい視点を取り入れ、自分自身の考え方や感情、強み・弱みを深く理解している。
	自己効力感	目標の達成や困難の克服に向け、自分自身の能力や可能性を信じて行動する力	目標の達成や困難の克服に向けた自信がもてない。	目標の達成や困難の克服に向けて行動の計画を立てるが、実行するには自信が足りないこともある。	目標の達成や困難の克服に向けて行動の計画を立てて、実行する自信がある。	目標の達成や困難の克服に向けて、予期せぬ問題にも柔軟に対応し、最後までやり抜く自信がある。
	目標達成力	多様な人々と関わる中で、自分自身の目標に向かい、考え方や行動を調整しながら進む力	目標を達成するために何をやるべきか、わからないことがある。	思うように行動できないこともあるが、目標を達成するために自分なりのやり方を試すようにしている。	周りの人の意見に耳を傾けながら、目標を達成するための行動をある程度起こすことができている。	周りの人の意見に耳を傾けながら、目標を達成するための行動を常に起こすことができている。
	偏見やステレオタイプへの気づき	自身の偏見やステレオタイプに気づき、考え方や行動を振り返り、意識して行動する力	自身の偏見やステレオタイプに気づくことがあまりない。	自身の偏見やステレオタイプに気づくことはあるが、その背景を分析することはできていない。	自身の偏見やステレオタイプを背景を含めて理解しているが、それを踏まえて考え方や行動を変えるまでには至っていない。	自身の偏見やステレオタイプを背景を含めて理解し、それを踏まえて考え方や行動を変えることができている。
	自文化の問い直し	異なる文化と自文化（＝自分が育った文化）の共通性・相違性の理解を通して、自文化を再解釈する力	文化背景の異なる人々と自身の考え方の共通性・相違性を気に留めることがあまりない。	文化背景の異なる人々と自身の考え方の共通性・相違性に気づいているが、自文化についてあらためて考えることはあまりない。	文化背景の異なる人々と自身の考え方の共通性・相違性について、その理由や背景を整理しながら自文化を分析する場面が時々ある。	文化背景の異なる人々と自身の考え方の共通性・相違性について、その理由や背景を理解したうえで、自文化に対して新しい見方ができる。
	異文化志向	文化背景の異なる人々との対話に、関心もって臨む力	文化的に異なる考え方やコミュニケーション・スタイルに対して、あまり関心をもっていない。	文化的に異なる考え方やコミュニケーション・スタイルに関心をもち始めている。	文化的に異なる考え方やコミュニケーション・スタイルをもつ人々への理解を深めるため、自分から対話しようとしている。	文化的に異なる考え方やコミュニケーション・スタイルをもつ人々への理解を深めるため、あらゆる機会で自分から対話を起こしている。

▲国際共修ルーブリックの例

① 自己成長へ向かう力
自己理解力、自己効力感、目標達成力、偏見やステレオタイプへの気づき、自文化の問い直し、異文化志向

② 関係構築へ向かう力
傾聴力、意見を表明する力、共感力、違いを受け入れる力、柔軟性、異文化コミュニケーション実践力

③ 協働へ向かう力
役割の遂行力、チームの関係性づくり、プロジェクトマネジメント力、ファシリテーション力、対立への対応

④ 課題解決へ向かう力
情報収集力、情報分析力、課題特定力、課題解決力

国際共修ルーブリックの全体像はこちら

学習環境

2025年4月に「**ICLアカデミックラウンジ**」が新設されました。主に全学教育が行われる川内北キャンパスの講義棟B棟1・2階に整備され、国際共修のグループワークやディスカッションに適した、**オープンでボーダレスな教育空間**となっています。

2フロアで計200名を収容できる広々とした環境で、授業等が行われていないときには、学生が自由に利用することができます。国際共修授業では、協働を深めるため、授業時間外学修としてグループワークを行うことも少なくありません。そのような場面では、ぜひICLアカデミックラウンジを自主的に活用してください。

国際共修について詳しくはこちら
国際共修に関心のある全ての学生に向けて、学びを最大化するための心構えや実践を網羅的に紹介する「国際共修ナビ」や、過去の履修生が実際に直面した課題—①言語の壁、②意識の壁、③関与の壁—に対する解決のヒント、科目一覧等をご覧いただけます

教員＆国際共修サポーターからの声

※所属・肩書・学年は2026年1月現在

末松 和子 東北大学 副理事（国際交流担当）
高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター センター長・教授

東北大学では、異なる言語・文化・専門分野をもつ学生が共に学び合う「国際共修」を全学的に推進しています。本学は、国際共修教育において国内の大学をリードする存在として、体系的なカリキュラムと豊かな国際環境を整備し、学生一人ひとりの対話力・行動力・主体性の育成を支えています。近年は、国内外の企業・機関や地域社会とも連携し、教室の枠を越えた国際的かつ実践的な学びの機会も提供しています。多様な仲間と協働しながら、自ら考え行動する力を磨き、新たな学びに挑戦してください。

国際共修サポーターについて詳しくはこちら

国際共修は留学生と「いっしょに」学び、考え、対話していく授業です。教室内外での密な交流を通してグローバルなコミュニケーション力を磨きながら、留学生はもちろん、他学部・他学年の仲間と自然に仲良くなれるのも魅力の一つ。初めてでも大丈夫です。私たち国際共修サポーターが皆さんの学びに伴走します。悩んだときには、ともに解決策を考えましょう。仲間と学び合い、成長を支え合える場で、安心して新たな挑戦の一歩を踏み出してみてください！

2025年度国際共修サポーター

西村 佳晃さん
文学部4年

山本 裕真さん
文学部3年

6つの学際的クラスター

2026年度より、東北大学の強みを活かした6つのクラスターのもとで国際共修授業を提供します。特に、社会変革に取り組む学外機関と連携し、具体的な社会課題の解決を目指す「**社会共創型国際共修**」を推進します。

クラスター名	学外共創機関	概要
グリーン未来社会創造	地方自治体、ソーシャルベンチャー企業、震災遺構、海外パートナー大学等	環境問題に代表される世界共通の課題に対応可能な未来の社会観について、文化背景や専門領域あるいは世代の異なる人々と協働して考え、課題解決に向け実践できるような行動力の育成および知識の涵養を目指す。
グローバル・リーダーシップ	独立行政法人、大手キャリアコンサルティング会社、米国ビジネススクール、大学同窓会組織等	グローバルかつ身近な社会にある課題を見出し、その解決に向けて他者と協力しながら、責任感と倫理観をもちつつ知識のアップデートに取り組むグローバル・リーダーシップの育成を目指す。
科学技術イノベーション	国立研究開発法人、グローバル製薬企業、大手クリエイティブエージェンシー、海外パートナー大学等	科学技術の革新とその社会への影響を深く理解するための知識の蓄積と多様な他者との協働を通して、対象となる社会の文脈に合わせながら最適化を考えることができるような創造性と能動的姿勢の成長を目指す。
グローバル・シティズンシップ	独立行政法人、公益社団法人、子ども食堂、海外パートナー大学等	人類共通の社会課題や普遍的価値の共有に意識的になり、それらに対して当事者として関わる学習意欲と姿勢をもちつつ、多様な価値観をもつ人々と協力して課題解決に向け行動する力の育成を目指す。
グローカル課題解決	地元商工会議所、地域活性化団体、地元事業協同組合等	地域の課題を地球規模の視点でとらえるための知識とスキルを獲得し、それらを活かして社会の多様な人々とともに協働的に課題に取り組む実践力の成長を目指す。
インターカルチュラル・スタディーズ	地方自治体、公益社団法人、地域伝統行事協賛会、国内連携大学、海外パートナー大学等	多様な文化的、言語的背景をもつ人々との学び合いを通して、異文化理解や語学・コミュニケーション力を含む異文化間コンピテンシーの向上を目指す。